

令和元年5月27日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02339

研究課題名(和文) アジア系アメリカ文学研究のポスト・グローバリズム的展開と多極的研究体制の構築

研究課題名(英文) Post-Globalistic Development of Asian American Literary Studies and Establishment of Its Multipolar Research System

研究代表者

山本 秀行 (YAMAMOTO, HIDEYUKI)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90230581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、G.C.SpivakやW.C.Dimock等が提示した「ポスト・グローバリズム」的「惑星思考」に基づき、「ディアスポラ」「ハイブリディティ」「ポリカルチュアリズム」「ポスト・コロニアリズム」という四つの新たなパースペクティブを研究スタンスとして据え、多言語・多文化を特徴とする1990年代後半以降のアジア系アメリカ文学・演劇(Fred Ho、David Henry Hwang、Kip Fulbeck、Ping Chong、Dan Kwongなど)の研究を日本、アメリカ、台湾の研究者との連携により行い、日・米・台湾を結ぶ多極的研究体制基盤を確立した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間内に、申請者が事務局長(平成29年度より代表)を務める、日本におけるアジア系アメリカ文学研究の中心であるアジア系アメリカ文学研究会(AALA)を拠点として、アメリカとアジア(特に台湾)を結ぶ、アジア系アメリカ文学研究者のネットワークを構築し、アジア系アメリカ文学研究の多極的研究体制の基盤を構築した。こうした「領域横断的」アジア系アメリカ文学の研究として「ポスト・グローバリズム」的パースペクティブの有効性を証明し、研究体制を「多極的」に転換することにより、本分野の研究を飛躍的に進展させる可能性を日本だけではなくアメリカ・アジアの研究者に対しても示すことができた。

研究成果の概要(英文)：In this four-year research project, from four new post-globalist perspectives based on G.C.Spivak and W.C.Dimock's concept of "planet-thought," multi-lingual and multi-cultural Asian American literature and plays after late-1990s (such as Fred Ho, David Henry Hwang, Kip Fulbeck, Ping Chong, Dan Kwong) were studied with cooperation of researchers in Japan, US and Taiwan for the purpose of establishing the multi-polar research foundation of Asian American literature.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アジア系アメリカ文学 ポスト・グローバリズム ポスト・コロニアリズム 惑星思考 ディアスポラ
ポリカルチュラリズム 多極的研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アジア系アメリカ文学は、公民権運動の影響を受け、1970年代の西海岸の大学のキャンパスで始まったアジア系アメリカ人運動の中で、それまで埋もれていたアジア系アメリカ文学テキストの発掘とその正当な評価を行い、アメリカ文学における絶対的なキャノン(正典)の見直しを促進した。アジア系アメリカ文学研究は、当初はカリフォルニア大学バークレー校、同大学ロサンゼルス校などのアメリカ西海岸の大学においてアジア系アメリカ人の学者によって行われていた。しかし、21世紀の初頭の現在、中国系の Ha Jin やインド系の Jhumpa Lahiri など、ディアスポラ作家たちによる「領域横断性」という顕著な特徴を持つ新潮流のアジア系アメリカ文学は、アメリカの学界の民族・国家意識、英語中心主義という限界のために、その研究は十分とは言い難い。こうした「領域横断性」を持つアジア系アメリカ文学の研究のため、香港生れの英文学者 Wai Chee Dimock(イェール教授)が提唱した「惑星思考」(planet-thought)のような「ポスト・グローバリズム」的概念が必要であり、また、従来のアメリカ中心の極集中的研究に替わる多極的研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究では、ますますトランス・ボーダー、トランス・ナショナル、トランス・カルチュラルな方向に向かう21世紀初頭の現代世界の縮図とも言えるアジア系アメリカ文学における地政学的・国家的・文化的「領域横断性」について、ポスト・コロニアリズム等の先端的な「ポスト・グローバリズム」的手法を使い解明を試みた。従来、アメリカ・マイノリティ研究として、アメリカの大学研究機関・学会および研究者たちを中心に行われて来たアジア系アメリカ文学だが、その「領域横断性」に対応するには、日本をはじめとするアジアの研究者の視点が必要不可欠である。本研究では、アジア(特に日本と台湾・韓国)の学会および研究者たちが研究を主導し、アメリカの学会および研究者たちの協力の下、本分野の多極的研究体制の基盤構築を目指した。

3. 研究の方法

1990年代以降のアジア系アメリカ文学の国家的・言語的・文化的「領域横断性」を研究するために、まず日本においては AALA のメンバーなどの本分野の研究者だけでなく、文化人類学・歴史学など関連する他分野の研究者からの協力を得ながら、最新の文学作品のテキスト研究と社会的・文化的背景解析などを行い、また、アメリカにおいて作者とのインタビューなどの現地調査を行うなどして、ポスト・コロニアリズムなど最新の理論研究を援用しながら多角的に研究を進めた。特に、アジア系アメリカ文学の「領域横断性」の解明に不可欠な「ポスト・グローバリズム」的パースペクティブに基づく、従来のアメリカ一極集中的研究に替わる多極的研究のため、これまでの交流実績を生かして、アメリカのみならずアジア(特に台湾・韓国)の研究者たちとの連携を強化し、アジア系アメリカ文学の多極的研究体制の基盤を構築することによって、研究の水準を高め、研究の内容を深化させる。

4. 研究成果

本研究は、G・C・スピヴァックや W・C・ディモック等が提示した、現代において国家基盤に基づく旧態依然とした機能不全に陥った学問体制に対応可能な「ポスト・グローバリズム」的「惑星思考」に基づき、アジア系アメリカ文学研究の新たなパースペクティブ・研究体制の構築を試みた。4年間の研究期間において、「ディアスポラ(diaspora)」「ハイブリディティ

(hybridity)」「ポリカルチュアリズム(polyculturalism)」「ポスト・コロニアリズム(post-colonialism)」という四つの「ポスト・グローバリズム」的パースペクティブを研究スタンスとして据え、主として1990年代以降の新潮流のアジア系アメリカ文学(演劇・パフォーマンスも含む)を、詳細な作品テキスト分析、作品の社会・文化的背景の解析はもちろんのこと、作者・パフォーマー等へのインタビューや現地取材等によって明らかにした。また、多言語・多文化を特徴とする「ポスト・グローバリズム」時代のアジア系アメリカ文学を研究するには、これまでのような日本国内およびアメリカの研究者たちとの連携はもちろんのこと、台湾の研究者との連携・協力を強化した。また、日系文学であっても、「領域横断性」を持った文学作品に関しては、「ポスト・グローバリズム」的パースペクティブの基に、日本やアメリカだけでなく、他のアジア諸国の研究者の見解などを取り入れることが有効であるので、積極的に他のアジア諸国の研究者と連携した。そして、本研究期間内に、申請者が事務局長(2017年度より代表)を務める、日本におけるアジア系アメリカ文学研究の中心であるAALAを拠点として、アメリカとアジア(特に台湾)を結び、アジア系アメリカ文学研究者のネットワークを構築し、アジア系アメリカ文学研究の多極的研究体制の基盤を構築した。こうした「領域横断的」アジア系アメリカ文学の研究として「ポスト・グローバリズム」的パースペクティブの有効性を証明し、研究体制を「多極的」に転換することにより、本分野の研究を飛躍的に進展させる可能性を日本の研究者(アジア系アメリカ文学研究はもとより、アメリカ演劇やフォークナー研究など他分野に及ぶ研究者)だけではなく、アメリカ・アジアの研究者に対しても示すことができた。そして、本研究の成果が、「トランスボーダー日系文学」研究基盤構築と世界的展開「世界文学」的普遍性の探究(基盤研究(B)(一般)、研究代表者:山本秀行、平成31年度~平成33年度、課題番号:19H01240)に発展し、国内外の研究者の参画・協力を得て、スケールアップして受け継がれることになったことは特記すべきことであろう。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

山本 秀行、「エミリーへの薔薇」を貫く<ディープ・タイム> アジア系アメリカ文学へと連なる時空を超越したテキスト的連続性を読み解く、フォークナー、日本フォークナー協会、査読有、第20号、2018、pp.49-64

山本 秀行、Kip FulbeckのHapaとしてのアイデンティティ・ポリティクスとアート、AALA Journal、アジア系アメリカ文学研究会、査読有、第23号、2017、pp.1-11

山本 秀行、クロスメディア・アーティストとしてのサム・シェパード、アメリカ演劇、日本アメリカ演劇学会、査読有、第28・29合併号、2017、pp.1-19

山本 秀行、Fred Ho's "Afro-Asian Connections": His Life, Politics, and Art、神戸英米論叢、神戸英米学会、査読無、第30号、2017、pp.39-52

[学会発表](計10件)

山本 秀行、エスニック・マイノリティの文学的戦略としてのスラップスティック、日本アメリカ文学会関西支部第62回支部大会フォーラム(招待発表)、近畿大学、2018

山本 秀行、Transbordering Strategy in David Henry Hwang's *Yellow Face*、アジア系アメリカ文学研究会第136回例会、神戸大学、2018

山本 秀行、Nagasaki as Kazuo Ishiguro's Imaginary Home、アジア系アメリカ文学研究会第131回例会、神戸大学、2018

山本 秀行、Kip Fulbeck の hapa としてのアイデンティティ・ポリティクスとアート、第 25 回 AALA フォーラム、神戸大学、2017

山本 秀行、“A Rose for Emily” を貫く “deep time” アジア系アメリカ文学へと連なる時空を超越した繋がりを読み解く、第 20 回日本フォークナー協会大会、鹿児島大学、2017

山本 秀行、アジア系アメリカ文学・演劇とマスキュリニティ（男性性）、津田塾大学アメリカ文学女性像研究会、津田塾大学、2017

山本 秀行、トランスナショナル化するアジア系アメリカ演劇 *Chinglish* に見られる D.H. Hwang の演劇的ストラテジー、アジア系アメリカ文学研究会第 127 回例会、日本大学商学部、2017

山本 秀行、ポスト・ミレニアル期の David Henry Hwang の trans-borderness をめぐって、日本アメリカ演劇学会第 6 回年次大会、エスカル横浜、2016

山本 秀行、Fred Ho's Afro-Asian Connection: His Life, Politics and Art、アジア系アメリカ文学研究会第 121 回例会、神戸大学、2016

山本 秀行、演劇と映画の境界を超える Sam Shepard、日本アメリカ演劇学会第 5 回年次大会、大阪ガーデンパレス、2015

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：なし

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：李 有成

ローマ字氏名：Yu-cheng Lee

研究協力者氏名：王 智明

ローマ字氏名：Chih-ming Wang

研究協力者氏名：キンコック・チャン

ローマ字氏名：King-Kok Cheung

研究協力者氏名：ダン・クワン

ローマ字氏名：Dan Kwong

研究協力者氏名：ピン・チョン

ローマ字氏名：Ping Chong

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。